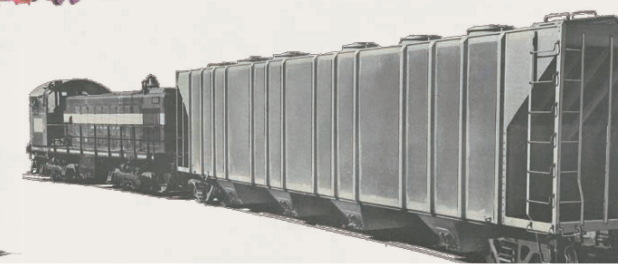
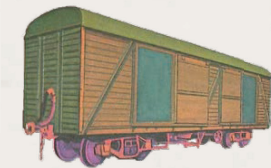
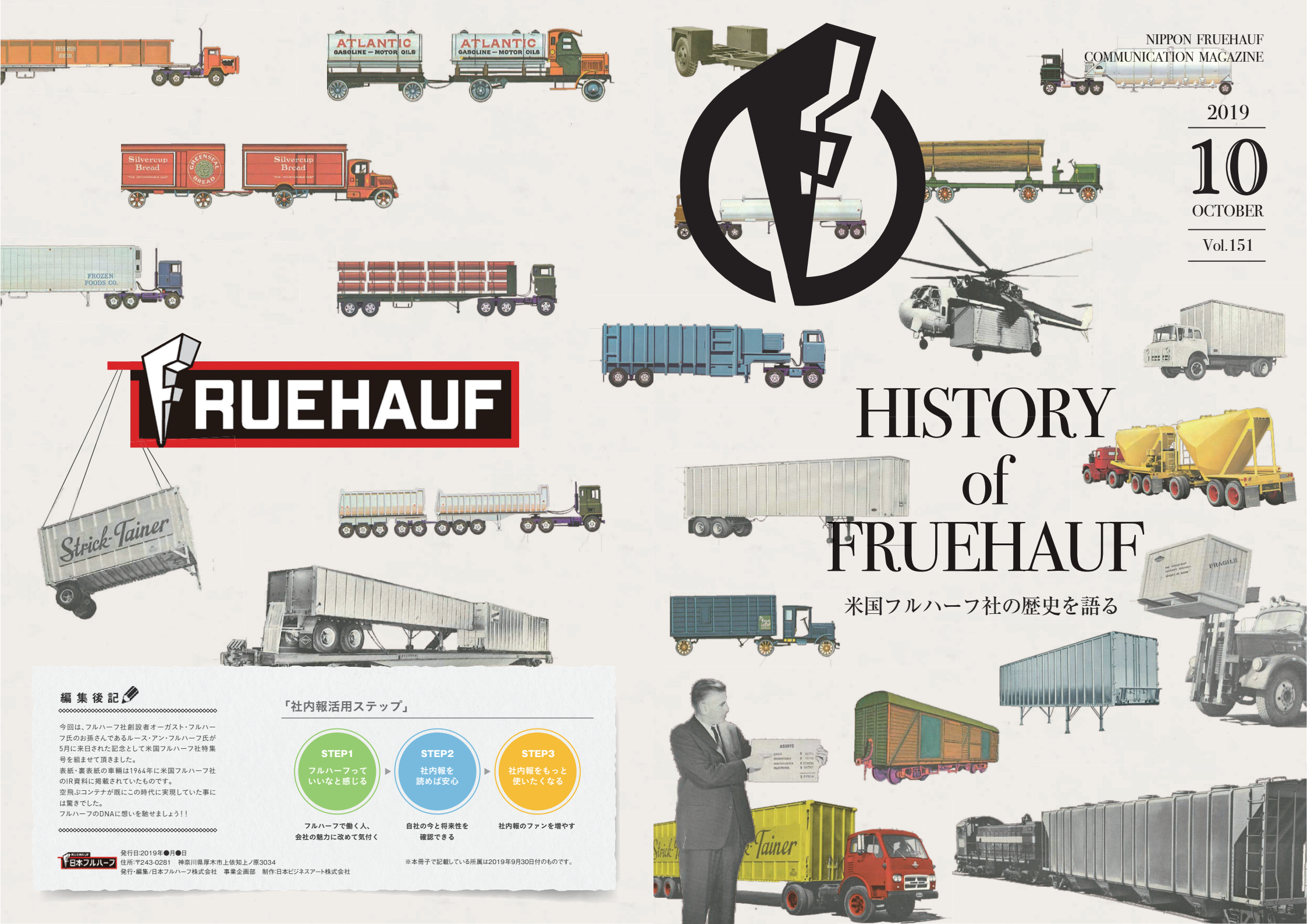




HISTORY of FRUEHAUF

米国フルハーフ社の歴史を語る



編集後記

今回は、フルハーフ社創設者オースト・フルハーフ氏のお孫さんであるルース・アン・フルハーフ氏が5月に来日された記念として米国フルハーフ社特集号を組ませて頂きました。
表紙・裏表紙の車輦は1964年に米国フルハーフ社のIR資料に掲載されていたものです。
空飛ぶコンテナが既にこの時代に実現していた事には驚きました。
フルハーフのDNAに想いを馳せましょう!!

発行日:2019年●月●日
住所:〒243-0281 神奈川県厚木市上依知上ノ原3034
発行・編集/日本フルハーフ株式会社 事業企画部 制作/日本ビジネスアート株式会社

「社内報活用ステップ」



※本冊子で記載している所属は2019年9月30日付のものです。

フルハーフ創設者の孫

米国フルハーフ社の歴史を語る

—— 知られていなかった偉業が明らかに ——

Episode 01

世界の物流の発展のために 米フルの歴史を保存・公開

ルース氏は現在、美術商として成功されているが、M&Aにより今は無くなってしまった米国フルハーフ社の膨大な資料が父、ロイ・フルハーフ氏（1908～1965年）没後も実家の屋根裏に保管されていた。兄弟たちはそれらの処分を提案したが、ルース氏はこれらの貴重な資料を世界中の人に広く知ってもらいたいと思い、書籍の発行やホームページ（Singing Wheels）を立ち上げ、公開し、また世界各地で講演を行ってきました。日本の物流博物館での講演会もそうした活動の一環でした。

Episode 02

これぞまさしく「第5輪」!

1914年米国デトロイトで鍛冶屋を営んでいたドイツ系移民のオーガスト・フルハーフ氏が材木商から「湖までポートを運びたい」という依頼を受け、T型フォードの後部座席を外して、トラクターを製作し、馬車を改造してトレーラを制作した話は有名な話ですが、今でも我々が使っているトレーラの「第5輪」という名称はフルハーフ社から生まれた言葉で、まさしく「第5輪」でした。



この写真は4輪のトラクターに車輪を載せて真ん中の軸の部分にトレーラのキングピンを差し込む様子を表しています。これが「第5輪」の由来か!と判る写真です。これは後にカブラに進化していきます。

最も重要な発明のひとつが1926年のオートマチックカブラです。ドライバーの車両操作でカブラのV字の切り込みにトレーラのキングピンが入り込むことで固定される仕組みは現在のトレーラ輸送では非常に重要な役目を果たしています。



Episode 03

トレーラは多く運べる!

そして陸上におけるトレーラによる効率的輸送方式が始まると、オーガスト・フルハーフは「物を持って運ぶより、引いて運ぶ方が多く運べる」、「馬の背中に荷物を載せて運ぶよりも、馬車を引いて運ぶ方が同じ馬力でもより多く運べる。」と宣伝しました。



Episode 05

海上コンテナも開発!

ルース氏の父、ロイ・フルハーフ氏がシーランド社と組んで誕生させた世界初の海上コンテナは、トレーラの箱の上下四隅に機械荷役を可能にするコーナーフィッティングを取り付けることでコンテナの段積みも可能とし、技術的課題を解決しました。これもフルハーフ社から生まれ、1957年ニューヨーク～ヒューストン間でコンテナ船が初就航しました。今では海上コンテナが全世界の物流を支えています。



ロイ・フルハーフ氏



トレーラの技術もそうですが、海上コンテナの技術も自分達だけの技術とせず公開したことで、現在の物流産業に大いに貢献したことは言うまでもありません。その他にもタンクトレーラのバッドプレートやエコライザーサスペンションも開発しました。そしてバントレーラのモノコック構造は橋の技術者が提案しました。当時としては画期的な強度と軽量化を両立した構造でした。



世界中に広がるフルハーフ

現在メキシコフルハーフのトレーラがアメリカに輸入され、活躍しています。「フルハーフ」のDNAは今日もワールドワイドに広がっており、物流を支えています。今回の彼女の来日で、フルハーフのスピリットをダイレクトに感じることができました。日本フルハーフグループも彼ら先達から継承した技術を育み醸成し、世界に貢献できる企業にしていかなければならないと思いました。



記事のライター
営業企画部
添田さん



▲創業時のロゴ

本年5月17日、東京・品川にある物流博物館において「アメリカにおけるフルハーフトレーラの歴史」と題した講演会が催されました。フルハーフ社創設者のお孫さんにあたるルース・アン・フルハーフ氏は来日中、この講演会だけでなく、当社OB会（5月15日）当社エンジニアとの座談会・ばら観賞会ファミリーデー（5月18日）にも参加され精力的に活動し、OB、役員、一部の従業員と交流された。しかし、短期間で従業員の皆さんと交流するのは困難でしたので、本紙にて、今まであまり知られていなかった「フルハーフ」に関する事実や資料をお知らせし、改めてフルハーフ社の偉業をお伝えします。



▲当社エンジニアとの座談会メンバー

フルハーフトレーラは 映画にも登場していた!!

以下の映画は皆さんご存知の方が多いと思います。左から「コンボイ」（サム・ペキンパー監督）、「激突」（スティーブ・スピルバーグ監督）、「トラランザム7000」（バート・レイノルズ主演）。フルハーフのトレーラが登場しています。映画ファンは是非見てみてください。

今回の来日で、Ms.Fruehauf氏のアテンドをさせて頂きました。本業が美術商である彼女に、ご自身が若手の頃の経験に基づき、海外からの来賓のアテンドについてアドバイスを頂いたことを強く記憶に残りました。朗らかで、気遣いに溢れた彼女と一週間あまり共に過ごした時間は、公私にわたって多くを学ぶ時間となりました。今回、このような機会を頂き、関係各所よりフォローして頂き、大変有難うございました。



直納営業部
山上 英璃佳さん

Group bulletin board

今回、ルース氏より入手した資料は、社内ノーツのグループ掲示板のお知らせ→総務部→トビックスに掲示しています。詳細を更に知りたい方はご覧ください。

CHECK!!